

僕たちだって、自立したい！ 私たちがだって、地域の中で生活したい！

『もっと福祉』の第二回目は、精神薄弱者の授産施設を訪ねました。真夏を思わせる日差しの中、荒尾福祉村の「荒尾市小岱作業所」では、訓練生の皆さんが「元気な汗」をかいていらつしやいました。今回のレポーターは、松永祥子さん（鹿本郡植木町）と塚本直子さん（荒尾市下井手）です。



「布をきれいに伸ばして……っ」と

●底抜けに明るい作業所

建物に足を踏み入れるなり、「コンニチハーツ」と元気な声。訓練生の方々が次々と笑顔で会釈して行きます。杉野庄式所長の案内で、作業所内を見学しました。「一言でいうと、精神薄弱者の職業訓練所のようなものです。現在、訓練生は入所四十名、通所二十名。平均年齢は二十七歳です。作業班は紙工、木工、農芸、窯業の四班。能力が高まり職場開拓ができたら就職。通勤寮やグループホームで日常面の援助を受けながら、自立してゆくこととなります。

●和気あいあいと、根気よく

紙工班では二十六名の訓練生が作業中でした。結婚式用の大きな袋。折って紐をつけ梱包します。これは指先の訓練になるそうです。また、車のプラグホルルのパッキン。型押しされたものから一個一個取り外し、箱に並べ、

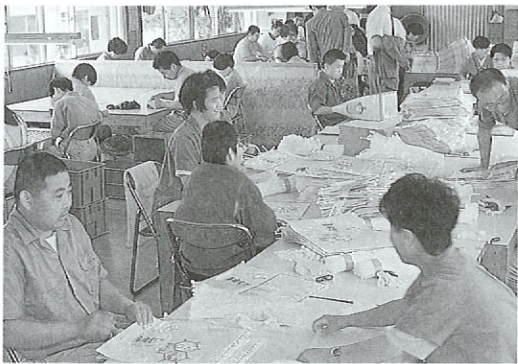
デコボコをハサミで切りそろえます。私たちがやってみました。単調な作業なので忍耐力が要ります。「速くはありませんが、丁寧さと根気強さにかけては健常者以上」と杉野所長。作業風景には活気も感じられます。

落とし蓋などを作る木工班を経て、窯業班へ。小岱焼の産地ということもあり、ここ「あすなろ窯」は、注文に追いつかないほどの人気です。泥だらけの訓練生、汗びっしょりながらも「粘土、とれたね？」と声をかける指導員。ほんわかとしたムードの中、茶碗や皿がどんどん焼きあがります。これらは、地域の皆さんに利用してもらっているとか。立派な「商品」なのです。

●地域に開かれた施設づくりをめざして

「彼らの目標は健常者と同じ生活です」「精薄者の施設は、以前は社会か

ら隔離されてきました。でも、自然な形で地域に根差したい。「彼らを理解してくれる人を育てるのも私たちの仕事です」と指導の方々。清掃作業、春の農業祭、盆踊り、十二月の感謝祭。作業所のイベントには、いつも黒山の人だかり。地域に開かれた施設づくりは着々と根づいています。



ひとつひとつの作業が丁寧に進みます

「福祉の心」を見ました

塚本直子さん

梅雨の合間のとても暑い日、私たちは、さわやかな風に出会うことができました。仕事場では、皆さん、丁寧に確実に作業を進めています。仲間と共に、イキイキと仕事に励んでいる姿が印象的でした。ともすれば、日頃私たちが忘れがちな大切なもの、「純粋さと一生懸命さ」に触れることができました。それに、皆さんが地域に溶け込んでいるという話にも感動しました。バザーや盆踊りなど誰でも楽しく参加できますし、商店街の方々と大の仲良し。なんて、とてもいい話ですね。「ここは自立して巣立っていく通過点です」と、職員の方々も皆さん一人一人の将来を家族のように暖かく見守ってらつしやいます。「福祉の心」を見せていただいた気がしました。

彼らの未来が明るく広がりますように

松永祥子さん

「十六才。年齢を尋ねたら明るく元気な声が返った。細い黒ぶち眼鏡の奥で丸い瞳が人なつっこそうに動く。「おばちゃん、こっちは外すとよ。切れ端はここにに入れて」。余計なおしゃべりはないが、質問にはちゃんと答えしてくれる。「挨拶だけは厳しく指導しています」と所長のお言葉。そう言えば玄関に入ったとたん、元気のよい挨拶の集中砲火を浴びた。ここでは、単に仕事を覚え、上達するだけでなく、地域のなかで生活できるようにするための学習が行われている。挨拶と就労能力を身につけた彼らは、既に自立に向けて歩み出している。帰りがけ、先程の少女が大きく手を振ってくれた。私も彼らの未来が明るく広がっていくことを祈りながら負けじと両手を振った。

「授産施設」とは？

働く能力はありながらも一般社会への適応能力に欠け自立が困難な障害者を対象に、潜在能力の開発および職応訓練を行う施設。各人の能力に応じた生産活動の場を提供し、心身ともに健全な職業社会人の育成を目的としています。

「授産施設」内での具体的な指導内容は？

生活指導と職業指導が二本柱。居室、洗濯、入浴、自炊、買い物などの指導を行い日常生活に自信が持てるようにします。また、職業訓練を続ける中で、意欲、持続性、根気を培い、働くことの喜びを認識できるようにします。

精神薄弱者対象の施設として他には？

- ・更生施設…自立のための施設。
- ・通動寮…仕事を持った障害者を2年間の訓練で自立させるのを目的とした寮。
- ・福祉ホーム…身の自立が完全にできる人のための「アパート」。
- ・グループホーム…地域の普通の住宅で数人の精神薄弱者が共同で暮らす生活形態。例えば金銭管理や対人関係など日常面での援助を受ける。

「授産施設」についてのお問い合わせは？

各福祉事務所(県事務所・市役所内)まで



「これ、いいねえ」。ショーケースに見入る塚本さん(写真右)



「おばちゃん、こっちは外すとよ」と最年少の訓練生。右は松永さん



もっと福祉 シリーズ2

授産施設1日体験